

学校教育ビジョン
 1. 学校教育目標 今も未来も たくましく生きぬく 山中っ子の育成 「Well-Being」 幸せになるために学ぶ 2. 目指す児童像 周囲と協働し、自らすすんで行動する児童
 3. 本年度の重点 もっとやってみよう山中小！2024
 (1) 「自ら学びに向かう児童」の育成 (2) 児童の「自己決定」の場面を設定し、「自己有用感」を高める活動の充実 (3) 地域との連携を通し、信頼される学校づくり

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果 (中間)	判定結果 (最終)	今後の改善策
①教育課程・学習指導	一人ひとりの子どもに力がつく、子ども主体の授業づくりのための授業改善を進める。	国語・算数の基礎基本の力を確実に身に付けるために教師はねらいを明確にもち、考えを深め、広げるための場の設定や発問の工夫などの授業改善に取り組む。	教務主任 (近藤)	昨年度は、教師がつけたい力を明確にして授業づくりを行うことで、児童の学びへの意欲が向上したが、学んだことを生かして表現することにはまだ抵抗があり、個人差も大きい。	【成果指標】 国語・算数の単元末テストにおいて、児童が、学年として必要な力を身に付けている。	国語・算数科の単元末テスト(知識技能)で80点以上の児童が A 85%以上いる B 75%以上いる C 65%以上いる D 65%未満である	1・2学期末 単元末テスト(国・算)			
②生徒指導 ※いじめの未然防止	児童が互いに尊重し、協力し合えるような温かい人間関係の中で、前向きに自分から行動できる活動の充実を図る。	学級会を定期的に行い、児童同士が自主的・自発的につながる機会を設ける。また、児童会活動などでは、自分で考えて、主体的に行動できるような場を設定する。	生徒指導 主事 (梶)	昨年度は、児童アンケートで「学校に行くのが楽しい」と肯定的に答えた児童が85%だった。一方で、昨年度末不登校・不登校傾向児童が6人と、一昨年よりも不登校・不登校傾向児童が増加した。	【成果指標】 児童が「学校に行くのが楽しい」と感じている。	「学校に行くのが楽しい」と回答した児童の割合が、 A 85%以上である B 75%以上である C 65%以上である D 65%未満である	1・2学期末 児童アンケート			
③キャリア教育・進路指導	自己理解を深め、自己肯定感を高める。	道徳や学活の授業を充実させ、自分や友達の良いところに気付くことができるようにする。また、キャリアパスポートを効果的に活用し児童一人ひとりが目的意識を持って行事や学習活動に取り組めるようにする。	キャリア教育 担当 (小濱)	全校を通して「自分にはよいところがある」と答えた児童は多い。反面、学年があがるにつれて自己肯定感が低い児童の割合は増えている。	【成果指標】 児童の自己肯定感が高まっている。	「自分にはよいところがある」と肯定的な回答をする児童が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	1・2学期末 児童アンケート			
④保健管理	睡眠の大切さについて学び、自らの健康的な生活について考え実践する。	担任の日常的な声かけや指導に加え、養護教諭が指導を行う。また、委員会の企画で意識を高めるとともに、保護者への啓発も行う。	保健主事 (岡崎) 養護教諭 (干場・田中)	過度なメディア利用等で睡眠時間が短くなり、生活リズムが乱れている児童がいる。	【成果指標】 児童が睡眠の大切さを理解し、対応している。	「しっかり寝るために行動した」と答えた児童の割合が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	1・2学期末 児童アンケート			
⑤安全指導	学校安全計画に基づき、学校安全に関わる取組を実施し児童・教職員の危機対応力の向上を図る。	火災や地震等を想定した避難訓練やシェイクアウト訓練、防犯教室を計画的に実施する。また、事前・事後の指導の徹底を図っていく。	教頭	計画的に避難訓練や研修を実施できたが、地震等の突発的な事態に備え、教職員、児童ともに危機対応能力を高めていく必要がある。	【努力指標】 訓練時に、児童・教職員が、危機回避のための適切な行動をとっている。	避難訓練やシェイクアウト訓練時に、適切に行動できたと感じる児童・教職員の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満である	訓練後、1・2 学期末 児童・教職員アンケート			
⑥特別支援教育	支援の必要な児童への適切な対応を図る。	特別支援コーディネーターを中心に、現状に応じて組織的な支援体制を計画・実施する。また専門相談員や特別支援教育地域アドバイザーを積極的に活用し、教職員の校内研修の機会を設け、支援や指導に生かしていく。	特別支援 教育 コーディネーター (吉野)	支援を要する児童が多数おり、随時支援体制を見直してきた。適切な支援について、支援方法を検討していく。	【努力指標】 校内支援委員会で検討し、組織立って適切な指導ができている。	支援を要する児童に適切な指導に努めている割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満である	1・2学期末 教職員アンケート			
⑦組織運営・業務改善	業務改善、勤務時間に対する職員の意識改革を進める。	時間外勤務時間が45時間を超えない働き方の意識を高め、業務改善につながる取組を全教職員で考え、試行し改善していく。	教頭	業務の見直しや効率化等により、業務改善は進んできているが、毎月の時間外勤務が45時間を超える教職員はまだ数名いる。自らの働き方について見直すとともに、組織としてさらに業務改善を進めていく必要がある。	【努力指標】 教職員が、効率的、効果的に業務を遂行している。	時間外労働時間が45時間以下となっている、また、なるように努力していると答えた教職員が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満である	1・2学期末 教職員アンケート			
⑧研修	校内研修に積極的に取り組み、児童が自分で考え、表現する授業づくりに努める。	特別活動を中心に単元を見通した授業づくりに努め、児童主体の学級会を行う。自分の考えをもつために議題や終末を工夫する。	研究主任 (小濱)	真面目に授業に臨む児童は多いが、自分なりの考えをもち、友達と表現しあったり、深め合ったりできる児童は少ない。児童が自身の成長を実感できるよう、考えを伝えたり、振り返ったりする活動を意識的に取り入れていくことが求められる。	【成果指標】 児童が自分の考えをもち、思いを表現している。	自分なりの考えをもって表現できたと答える児童の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満である	1・2学期末 児童アンケート			
⑨保護者、地域との連携	保護者や地域の方々とともに課題解決に取り組む、児童の成長を喜ぶことができる連携を図る。	コミュニティスクール(CS)・コーディネーターと連携し、地域の方々との協力体制を整えるとともに、ホームページ(HP)やコモン等のICTを活用し積極的に学校の様子を発信する。	教頭 情報担当 (宮西)	便り等で学校の様子を伝えているが、保護者や地域との連携・情報共有はまだ十分とは言えない。今後も、情報発信のための取組が求められる。またCSの2年目であり、さらなる体制づくりが求められる。	【満足度指標】 便りやHP等のメディアを活用し、保護者が児童の学校生活の様子を知ることができている。	学校便りやHP等で、学校の様子がよくわかると答えた保護者の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	1・2学期末 保護者アンケート			
⑩教育環境整備	児童一人ひとりが安全安心で、主体的な学びへとつなげられる教育環境の整備に努める。	安全点検や日常の教育活動を通して、合理的配慮の視点から教材教具を整えていく。	教頭 事務 (松原)	これまでも修繕等の教育環境整備に努めてきている。今後も続けて、児童一人ひとりの主体的な学びにつながるような合理的配慮に基づいた教育環境の整備が求められる。	【努力指標】 児童への合理的配慮の視点から教育環境を整備することができたと答える教職員の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満である	児童への合理的配慮の視点から教育環境を整備することができたと答える教職員の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満である	1・2学期末 教職員アンケート			

学校関係者評価